

市Pのお手紙 第2巻第2号

平成21年 蘭月号

2009年 6月30日発行

茨木市PTA協議会

平成21年度スローガン

つながることから
はじめよう!

平成21年度基本理念

「参加しなければならぬ市P」から、「参加しなければもったいない市P」へ。

このお手紙は
次の3人の人に向けて
書いています。

- ①「PTAなんて、自分には関係ない」と思っている方。
- ②「子どもたちのために何かしてあげたいけど、何をしたらいいのかわからない」という方。
- ③「喜びやつらさを分かち合える仲間が欲しい」と思っている方。

↓ INFORMATION ↓

現在、市Pは「新しい社会にふさわしい市Pの姿」を模索しています。

六 月の風

みなさん、こんにちは。茨木市PTA協議会、会長の射場一之(いばかつゆき)です。

6月は東京・和歌山・新潟・北海道に、合わせて7日間ほど出張していました。

和歌山は新宮市への出張だったのですが、先行列車にトラブルがあり、行きは4時間30分ちょっとかかりました。4時間30分というと、新幹線を乗り継いで、ちょうど仙台まで行ける時間です。

特急列車で遅れがなければ、新大阪から和歌山市までがほぼ60分。和歌山から新宮までがほぼ3時間の道のりです。時間はかかるのですが、和歌山—海南—有田—御坊—田辺—有田—串本と海岸線を走るルートは変化に富んでいて、分厚い本を持って行っていたのですが、つつい車窓にばかり目が行き、読書が一向に進みませんでした(笑)。

さすがに東京では感じられませんでした。和歌山・新潟・北海道ではいずれも、車窓から見た六月の風は、とても綺麗でした。

大 阪府PTA協議会

6月16日、府P(大阪府PTA協議会)の平成21年度総会が行われました。

府Pの会員数(=児童・生徒数)は約531,000人。平成21年度一般会計予算額は約2950万円、各種特別会計等を含むと、約7550万円になります。では、貴重なこの予算を用いて府Pはどのような活動をするのか—その大きな柱は

1. 健全育成
2. PTA活動の充実と活性化
3. 家庭・地域との連携と地域活動の活性化
4. 教育環境の改善、充実
5. 情報・資料提供
6. 国際理解
7. 保障制度


の7つです。ここではこれ以上詳しく述べませんので、ぜひ一度府Pのホームページをご覧ください(「大阪府PTA協議会」で検索して下さい)。

ちなみに下のマークは、府Pのシンボルマークです。



次ページへつづく→

左右が「P」、全体が「T」、下部が「A」を図案化したもので、PTAを表しています。真ん中の(赤い)丸は、子どもをしっかりと、しかも温かく見守る親の目を、白ヌキは、すくすくと健全に育つ子どもをそれぞれ表しており、家庭、学校、地域社会で子どもの姿をいつも温かく見つめ、健やかな子どもの成長を願う府Pの基本姿勢を表しています。

一方、茨木市PTA協議会のマークはページの上
部にもある左のようなものですが、このマークの意味するところは資料が残っておらず、残念ながら正確なところはわかりません。

ですが私には、大小二つの「P」は子どもと大人を
図案化したものに見えます。

よく、「『人』という字は、人と人が支えあって立っている様子を表す」などと言われます(本当は、人が立っている姿を横から見た形をあらわしたものです)が、二つの「P」つまり子どもと大人がお互いに手を取り合い、支えあっている様子を表しているのではないかと思っています。親が一方的に子どもを育てているのではなく、育てることによって、親が勉強させてもらっているという気持ち、子どもは親を高めてくれる宝だ、という想いが表現されている——私にはそのように感じられるのですが、いかがでしょう……?

P

TAへのお手紙

私は単P(単位PTAの略。自分が所属している幼・小・中のPTAのこと)でも『PTAのお手紙』を出しているのですが、先月はこんなご意見をいただきました。

いつも、PTAの活動に全力を注いでいただき、ありがとうございます。「〇〇っ子

6月号」を、読み始めて、いきなり、気分が悪くなりました。

“新型インフルエンザ騒ぎにより”とは、何事ですか。

どなたが、文面を作られているのかわかりませんが、今回の感染してしまった人達を、「騒ぎの当事者」という目で、見られている先生が、一人でもおられたということはとても残念ですね。感染した人たちが、この数日間(今でもだと思います)どんなにつらい時間を、過ごされたことか。他の学校に聞くと“インフルエンザ対策”と記されているそうです。騒ぎ立ててしまったのは、マスコミとA小の何人かの先生ではないでしょうか…。

というものでした。この方は、人の心に寄り添うことのできる、とても優しい方なのでしょう。新聞やテレビなどで見聞きすると、新型とはいえ、感染しても従来のインフルエンザと症状は変わらないようです。とは言うものの、この方のおっしゃるように、新型インフルエンザと診断された方のお気持ちを察すると、とても不安な気持ちでいっぱいだったのではないかと思います。

ところで、「騒」という字には「ソウ」「さわぐ」「みだれる」という読み方があり(『字統』)、成り立ちは「馬がひずめて地を書いて、『さわぐ』という意味(『角川最新漢和辞典』)」だそうです。さらに「騒ぎ」という言葉の意味を『日本語大辞典』で見ると

- ①声や物音が大きく、やかましいこと。
- ②事件やもめごと。とりこみ。騒動
- ③(下に打ち消しを伴って)なまやさしくない程度。

という三つの意味が記されていました。

上記の文章を書かれた先生には、感染された方を批判する気持ちなどこれっぽっちもなかった——私はそう感じています。

そして、今年の市P大会は、「参加しなければならぬ市P大会から、参加しなければもったいない市

……言葉って、難しいですね。

私は、言葉とは単なる情報伝達手段ではなく、想いを伝えるものだと思っています。ある言葉の意味を、すべての人が同じように理解しているわけではありません。その言葉の意味をかん違いして覚えてしまっていることもあれば、育ってきた環境によっても言葉の持つ意味は違ってきます。だからこそ、相手のことを思って言った言葉が、深く相手を傷つけてしまうことがあるのでしょう。しかし、だからといって、誤解を恐れてばかりいては、人と心を通わせることはできません。

人は、孤立すると自分を見失います。

人は、誰もが心のどこかで確かな絆を求めて生きています。

だからこそ、言うべきことを、言うべき時に、明確に語っていく勇気も必要です。ですが、この“明確に”というのがむずかしいんですよ。

私も、できるだけ工夫はしているつもりなのですが、なかなか思うようにはいきません。

賛成? 反対? さて、あなたはどっち?

小学6年生と中学3年生を対象に文部科学省が実施している「全国学力・学習状況調査(全国学力テスト)」の学校別結果について、保護者の67.3%が公表すべきだと考えていることが、政府の規制改革会議で報告されました。一方、市や区などの教育委員会では、86.7%が公表すべきではないと回答し、「過度の競争」を懸念して学校の自主的公表以外を認めない文科省の方針を支持しており、保護者と行政側との意識ギャップが浮き彫りになっています。

保護者が学校別成績の公表を求める理由は「学力向上は学校(教員)の責務だから」が56.8%で最も多く、他に「学校選択のための基本情

報「説明責任を果たすために公表は当然」などという理由が挙げられていました。ちなみに、公表すべきではないとする回答は10.5%でした。

都道府県・政令市の教育委員会で公表すべきではないとする回答は65.1%で、市や区の教育委員会を下回り、大阪府のように公表に積極的な知事がいる現状を見事に反映した結果となっています。

携帯を使わない中学生ほど、成績は良好

群馬県教育委員会が、全国学力テストの結果と中学生の携帯電話の使用頻度との関係を調べました。それによると、使用頻度の低い生徒ほど成績が良い傾向があったそうです。

県教委は、2008年4月に行われた全国学力テストを受けた県内の中学生数百人の結果を、同時に行われた生活習慣を調べる質問への回答と対照しました。その結果、成績順に4段階に分けたうち、最上位の生徒の52%が「携帯電話を持っていない」と答え、「ほぼ毎日使用している」と答えた生徒は25%にとどまったそうです。一方、4段階の最下位層の生徒は40%が「ほぼ毎日使用」と答え、「持っていない」は36%だったそうです。

その結果から県教委義務教育課は「携帯電話の使用が、家庭での学習時間を減らす要因になっているのでは」とコメントしています。

携帯電話

乳幼児の心の発達にかかわるシンポジウムに参加したノンフィクション作家の柳田邦男さんが、今時の母親の実態に唖然としたと言います。

それは、小児科医が発表した、ある母子休憩所で母乳を与えていた10人ほどの若い母親たちにつ

いてでした。母親全員が、我が子の顔を見ずに黙々と携帯電話のメールに没頭していたというのです。

そうせざるを得ない理由があったり、このことが現代の母親すべてに当てはまるものではないかもしれませんが、しかし、乳幼児期は心と体を育てる上で大切な時期だと言われます。母親が子どもの目を見、抱きしめ、声をかけることが必要だと――。

柳田さんは、「時には涙を流し、時にはとびきりの笑顔で、読み聞かせを重ねることが豊かな心を育む」として、母親に絵本の「読み聞かせ」を提唱しています。

自分の都合だけを優先して、目を背けていては大切なものが伝えきれず、良好な心も関係も作り上げられません。大事な家族、仲間、助け合うべき周りの人たちに、笑顔を向け声をかけ、ふれあえる環境を築いていきたいものです。

PTAの活動に対するあなたのご意見・ご提案を、ぜひお聞かせください。

頂いたご意見には必ずご返事をさせていただきます。

「市Pは単Pの応援団」として、子どもたちが安全で快適な学校生活を送れるよう、単Pと連携しながら、必要があれば、市や教育委員会ともお話ししていきたいと思います。

私は皆さんと共に、心をこめて、よりよいPTAをつくっていききたい、そう願ってやみません。また、どうすれば、みんながやりがいと熱意をもってPTA活動に励めるかを、考え続けていきたいと思っています。

発行責任者
茨木市PTA協議会
会長 射場 一之
茨木市新和町16-19
電話 072 (635)1134
Fax 072 (632)3900
Email ashihara_pta@iba.co.jp



市Pへのお手紙

皆様のお便りをお待ちしております

お仕事などで忙しい方も、隙間時間を利用しこの紙面のPTA活動に、ぜひご加下さい。『市Pのお手紙』の感想や市Pへの提案など何でもお書き下さい。FAXでも、メールでもOKです。また、この用紙ではなく広告のうら面などに書いてお出しいただいてもかまいません。よろしく願いいたします。

【単P名：

お名前：

】 ※無記名でもOKです。



頂いたご意見を、『市Pのお手紙』にご紹介してもよろしいですか？